

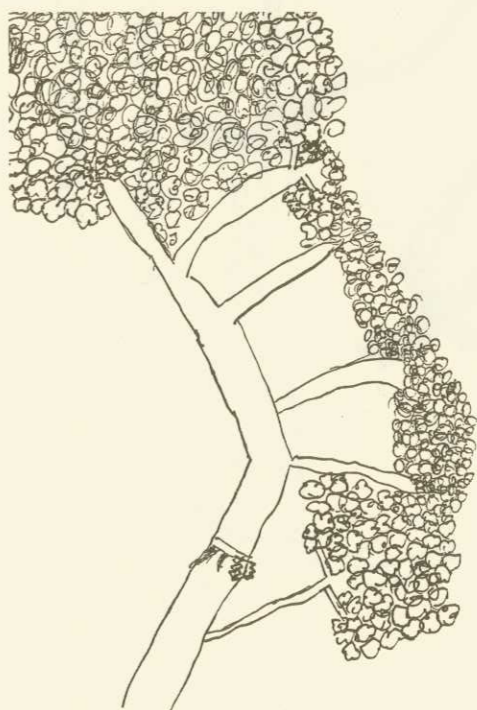
⑥ 薄墨桜

継体天皇がまだ男大迹皇子と呼ばれて、味真野や栗田部にお住いの頃のことです。山が三角形をなす地点、栗田部の皇谷山と岡本の別印の権現山とこの上河内の山に一本ずつ桜をお植えになりました。

その一本が、今も如来谷にある薄墨桜です。上河内の赤谷坂を登ると、岩の上に大きな桜の木が見えてきます。

皇子は河川改修に力をそそいでおられましたから、ここまでおいでになったのでしょう。愛娘の茨田ひめが住まわれている尾花の里も近いのです。

谷にせり出すように生えているこの桜は、お手植えの木の孫桜といわれています。幹まわり二・四メートル、しめ縄を張られた木は、里の桜が散った頃、ようやくペンクのつぼみをつけ、



ゆっくりと白っぽい花を開きます。まるで淡い墨をながしたように見える、風情のある桜です。

昔は花見のお祭りをして、にぎやかでした。踊り好きな伝助さんが、花に浮かれて踊りはじめたという伝助踊りは、今に伝えられているのです。

そうして、この天皇ゆかりの桜は、昭和四十六年に鯖江市の天然記念物に指定されました。品種はエドヒガンです。

⑦ 山伏岩と的岩

薄墨桜の上の林道のすぐ上に、七個の岩があります。むかし山伏が修行したという山伏岩です。

天正二年（一五七四年）に、鯖江の天台宗長泉寺に一向宗徒が攻めてきて、寺に火をかけました。

一年前に、朝倉義景が織田信長に滅ぼされてから、それまで長い間、朝倉氏と戦っていた一向宗の信者は、ここを越前の国を自分たちが治める国にしようと立ちあがっていました。

そして、ほかの宗旨の寺を焼きはらっていたのです。

そこで、長泉寺中道院の五十二代の秀運法印は、元三大師像をせおって、この山伏岩の穴に
くれておられたのです。二年たつて騒ぎがおさまったころ、中道院にもどられました。

穴は、今はほとんど土にうまり、キツネやタヌキの棲み家になっています。岩の上に枝ぶりの
いい赤松がはえているのが目じるしです。

山伏岩の先に、白っぽいのと黒っぽいのと二つの大岩が並んでいます。

弁慶が、真向かいの山の清根坂から弓を射たという岩です。表面のきずは、矢があたってで
きたそうです。

⑧ 河内桃

まだこのあたりでは米の味を知らなかった遠い昔のことです。上河内の山奥で、お百姓さんが

稗や粟のとり入れをしていると、山の上からお坊さんがおりてきて、桃の種を三つくれたのです。

種を植えて三年目に花が咲き、かわいらしい実がなりました。食べてみると、その甘くておい

しいこと。村人は山のあちこちに桃の木を植え、大事に大事に育てました。なかでも庄谷の川を

さかのぼった山は、きれいなおいしい桃が

たくさんとれたので、桃の木谷と呼ばれる

ようになりました。

千五百年あまり昔のことです。継体天皇

がまだ男大迹皇子とよばれていたころ、米

がたくさんとれるように、九頭竜川、

足羽川、日野川の改修をして、荒れ地を田

に変えておられました。この河内の山の

源流まで何度かおいでになりました。尾花には最愛の茨田ひめもお住まいです。ある日、この桃

の木谷においでになった皇子は、桃を取ろうとして、岩間にお冠を落とされてしまいました。

